

第6回庁舎等基本計画策定審議会議事録

日時：平成24年10月11日 14:00から

場所：伊予市中央公民館2階第1会議室

参加者：策定審議会委員17人、事務局6人、委託業者2人、傍聴者31人

1 開会

2 議事

(1) 第5回庁舎等基本計画策定審議会議事録について

(会長) 議事にしたがって進める。議事録は事前に配布している。ご異議ないだろうか。それでは確認いただいたということで、市のホームページで公表することとなる。

(2) 配布資料の説明について

(会長) これから配布資料の説明をいただき、その後グループワーク、まとめになるかと思う。時間がたくさんないのでどんどんやっていきたい。それでは石本建築事務所から説明をお願いします。

(業者) 今日具体的な議論に入る前に、配布資料の説明を行う。

1. 伊予市図書館建設検討報告書

この資料は表紙にあるとおり、伊予市職員による建設検討委員会という組織が今年2月にまとめたものである。この検討報告書は、決まった内容というのではなく、議論の中での一つの参考(目安)という取り扱いで考えている。今後の審議の中で可変的に取り扱うこととしたい。

全体として3つの章から成り立っている。第1章「図書館の現状と課題」とあり、昭和55年3月の完成に始まり、施設の概略を示している。次ページでは、伊予市の奉仕人口、蔵書冊数、一人当たりの蔵書冊数、一人当たり貸出冊数を示し、比較のために近隣の自治体のデータを載せている。また文化財資料の収蔵状況についてもまとめている。3ページからは、図書館システムや児童サービス、文化財展示など、伊予市の図書館で行われているサービスをまとめている。5ページから現状の図書館の問題点を挙げている。施設の老朽化やアクセスのしづらさ、床面積の問題など、写真を交え紹介している。8ページには、第1次伊予市総合計画における図書館・文化資料館の必要性を記載している。次ページからは、図書館に関する市民意向ということで、市が実施したアンケート調査の集計結果を紹介している。図書館サービスの満足度や新しい図書館に必要と思うコーナー、利便性の向上や充実してほしいサービスなどについ

での回答がある。

第2章「新図書館の目指す方向」。新図書館の基本理念として、「市民が集い、学び、くつろげる図書館を目指して」と書かれているが、あくまでも参考と捉えていただき、今回の審議会を通し、出た意見によって変えていく立場で進めていきたい。次の基本方針についても、一般的にはこういうことを書いていくものだと、まずは読み取っていただければと思う。我々は建築計画あるいは都市計画のプロとして、図書館の施設計画からは、こういったことは必ず書いていくものであるが、皆さんは伊予市民としてのプロとして、伊予市にどう適応した文書にするかを中心に議論いただきたい。14 ページ、図書館のサービス目標については幾つかの指標を設け、他市町との比較を挙げている。図書館活動を活発にしていく基本になってくると思うので、参考として読み取っていただければと思う。18 ページの施設計画については、基本計画に記載していく事項であり、必要と思われる諸室をざっと紹介している。こういった諸室について、例えば今後は必要ないのではないかとか、もっとこういった機能が必要ではないか、そういう参考にしていただければと思う。

第3章「今後の新図書館の整備について」は、事業スケジュールであり、この辺りは今後の流れの中で変わってくる流動的な情報になる。

2. 「はじめに」から始まる複合化に関する資料

市長から中央公民館の敷地に複合化するという方針が出された。前回口頭で説明があったのだが、今後基本計画の中でまとめていく場合、どんなまとめ方になるか仮に作ったものである。これらの文言についても、伊予市にふさわしい文書、テーマ、基本理念に置き換えたいと考えている。たたき台ということで見ただけであればと思う。次ページには基本理念を掲げているが、これも仮に決めたものであり、皆さんとの審議の中でもっとふさわしい言葉が出てくると思っている。2. 整備の概要では、図書館、郷土資料の保存収蔵機能、中央公民館、文化ホール、老人福祉施設を複合化するというものを示した概念図である。複合化により、それらを連携していくことができるのではないか。この辺りも、もう少し細かく、問題点やメリットを精査していきたい。また、市長のコメントにもあったように、複合化による管理やサービスのあり方について、よりメリットが多いものを考えているが、こういうサービスに関するもの、施設管理に関するものについても、皆さんの意見を出していただきたい。

3. 敷地の法的な制約

前回の審議会で質問のあった敷地の制約について、簡単に説明する。今日の審議会は、今回の計画対象となる敷地の中央公民館で行っている。先ほども何度か通った JR 予讃線が横に通っており、敷地の北側にはぐんちゅう保育所がある。その北側を市道築港吾川線が走り、西側は郵便局を介して国道 378 号が走っている。この赤で囲まれた所が対象敷地であり、現在は公民館・老人施設の入った建物と保健センター・図書館の入った建物の 2 つがある。敷地面積は机上の計算で約 7,600 m²である。都市計画法に基づく用途地域は第一種住居地域であり、容積率 200%、建ぺい率 60%という条件である。ちなみに南に位置する市役所周辺は近隣商業地域となっている。用途地域は大きく分けて、住居系に係る用途地域、商業系にかかる用途地域、工業系にかかる用途地域というのがあり、このうちの住居系の中の第一種住居地域という条件があると認識いただければと思う。この用途地域には建築できるもの、建築できないものという条件があり、図書館、公民館、老人福祉施設は規模に関係なく建設ができる。検討・議論が必要になるのは文化ホールであり、仮に 3 階未満で床面積が 1,500 m²以下の集会場であれば計画できる。これが劇場になると建設できない。集会場と劇場との違いは、座席が固定席か可動式により平土間にできるかなどがある。劇場は常に座席が固定されている。11 月に文化ホールの審議を進める予定であるが、このときは情報をもう少し提供し、議論することになる。ただ現在の市民会館のような固定席のスタイルを取る場合は劇場にする必要がある。その場合、全く方法がないかという点、建築基準法 48 条の許可を取るという方法はある。今後やはり劇場型が必要だという意見が多数を占める場合は、伊予市が建築基準法 48 条の許可の判断を出すかどうかになる。そのほか愛媛県の条例で、全面道路の幅により劇場・集会場の設置できる面積もある。そういう制約がある中で計画をすると捉えていただきたい。

それから、第一種住居地域には日影の規制がある。北側にぐんちゅう保育所があるので、ここに建物を建てていく場合、どういう形になるかシミュレーションしたものをスクリーンに映している。この建物が北側に落とす影に対して制約が出るので、我々はこのボリュームを逆日影と言っている。皆さん以前議論された庁舎建設の条件としてもあったかと思うのだが、そういう配慮が必要となってくる。無尽蔵に建物を積み重ねて建てるということではなく、階高約 5m と仮定して、30m の高さまで積み上げた場合、形状によって限られた範囲にしか高く建てられないという条件のイメージ図になる。

4. 図書館他市事例（西条市図書館ほか）

まず西条市立図書館である。西条市は 2 市 2 町の合併であり、後の 1 市 2 町にも図書館があるので、正確には西条市立西条図書館である。ここは我々が実施設計以降担当させていただき、3 年前にできた。実は基本設計は別の会社だったのだが、実施設計のプロポーザルで変わったため、基本設計案とは全く違う内容となっている。当初はフジグランを図書館に改造する話だったのだが、市民の猛反対により新築することになった。建設地は西条駅の北側だったのだが、敷地が南北に細長く、図書館としては管理がしづらい不利な形をしている。エントランスホールを入ると、細長い開架室がある。南側に事務室などバック部分があり、北側に児童開架がある。北側の光は非常に安定しているので、北に広く開けた配置とし、気持ちの良い屋外の芝生空間に繋がっている。この図書館は 2 階建ての建物であり、1 階開架部分の両端に吹抜けを、真ん中に光の庭を配置している。書庫は四国で初めて自動化書庫というのを導入している。書架のデザインはやや濃い目の黒色にしている。これは本そのものをギャラリーというか、本を目立たせるよう意図している。書架には書架照明を設置し、明るく、雰囲気的に非常に落ち着いた感じになっている。失敗した点として、当時書架がどこに入るか全く分からなかったので、書架のサインが小さかった。今はサインがベタベタと貼られていて、これは失敗だったと思う。コントロールカウンターのデスクは個別に分かれるスタイルである。上部を吹抜けとし、自然光の入るトップライトにより、ここがコントロールカウンターですよと大きなサインがなくてもすぐ分かるようになっている。1 階の書架配置は進行方向に対して 45 度振っている。我々は「本の森」と言っているが、本の森に誘い込まれるように配置された書架である。天井部分は石鎚の山の形に合わせ、切妻の屋根になっている。床面は 1 階がフローリング、2 階がカーペットという仕上げである。芝生広場がすぐ近くにあるため、メンテナンス上 1 階をフローリングにしたのだが、やはり音が響くという問題がある。図書館で床の仕上げは非常に大きな要素であると覚えておいていただきたい。図書館内にはいろんな閲覧席を設けている。出窓でハイチェアの閲覧席としたり、家庭の居間のような雰囲気を持つコーナーとしたりしている。児童開架室は北側の広場に面した場所にあり、3 段くらいの低書架とし、一部カーペット敷きとしている。別にお話コーナーを設けており、子どもに絵本を語って聞かせる会や、全部カーテンを閉めているような演出ができるようにも考えている。2 階には視聴覚、オーディオビジュアルの資料があり、インターネットや DVD など利用可能である。先ほどのアン

ケートにもあるとおり、要望として出やすい学習室も設けている。

図書館は、単純に本を見たり借りたりするだけでなく、ご自身が抱えているいろんな課題を解決するために使い倒すスペースだということを言われ始めた。例えば自分の健康問題や就職の問題など、図書館で解決するという、いわゆる課題解決型図書館である。西条ではミニオフィスのようなコーナーがあり、それぞれパソコンなりインターネットなり使えるスペースを作っている。

西条は少しくラシックなイメージであるが、我々の設計ばかり説明してもいけないので、全く違ったイメージの図書館を幾つか紹介する。まずは、金沢海みらい図書館。雑誌のコピーなので分かりにくいかもしれないが、建物自体は非常に一般的な形になっている。1階に児童開架があり、2階、3階に一般開架があるのだが、外壁が非常にユニークである。GRC板というコンクリートで覆われているのだが、そこに6,000個ほどの丸窓を開けており、すりガラスになっている。部屋全体が半透明の光で覆われるという、ちょっと変わった雰囲気の間ができています。一般照明は開架、書架照明で取っており、後は自然光からの光という事である。ただ行った人からちょっと暗い感じがするという意見もある。

長野県の小布施町立図書館である。建物自体は三角形で、屋根がめくれ上がった建物であり、図書館というよりおしゃれな喫茶店があるイメージである。誰もが入って行きたくなる。で図書館のイメージからするとあまりおしゃれをするとまずいのだが、ここではあまり気にしていない。図書館の館長が入口近く、コンシェルジュカウンターに座っている。この館長は公募で東京から1ターンされた元テレビのディレクターの方である。町のワークショップを5、6年かけてやりながら、こういう図書館を造り上げた。町の中にも、例えば酒屋にお酒やワインの本を置いたり、パン屋さんにパンの本を置いたり、町全体が図書館だよという町づくりをしていると聞いている。外構は建物が竣工したときにお金なくて、町民が手づくりで造ったとも聞いている。

だんだん図書館のイメージから外れていく。武蔵野プレイス、建物自体は四角い3階建てに見えるのだが、地下2階地上4階の建物である。今までの図書館の理想は、できるだけ開架室が広く、いろんな本が全部あるというものだったが、ここはアーチの付いた壁でわざと部屋を分けている。書架の置き方も島式の書架はあまりなく、壁面書架が多い。図書館には実は2つタブーがあり、まず飲食は駄目、それからおしゃれ・音が駄目であったのだが、ここは1階入ったすぐの所にカフェがあり、その隣に書架があるという非常にユニークな図書館である。地下2階に

はヤングアダルトのためのスペースがあり、そこでは本を囲んで議論したりおしゃべりしたり、ゲームしても構わない。その隣にフリースペースのスタジオラウンジがあり、スタジオもある。青少年が気軽に集える場所というイメージである。

複合の例として大社文化プレイスを紹介する。島根県出雲市（元大社町）の複合施設である。建物は600人のホール、200人の小ホール、図書室から成り、平面的に併設されているので、そんなに難しい構想ではない。今回、敷地が狭いのでひょっとすると図書館の上にホールが乗ったり、ホールの上に図書館が乗ったりになるかもしれないが、ここでは並列して並べてある。

最後にせんだいメディアテーク、大社文化プレイスと同じ設計者の伊藤豊雄の設計である。これは割と有名な建物なので、ひょっとしたら行かれた方があるかもしれない。10年くらい前にできた図書館と市民ギャラリーの複合である。非常に斬新なデザインであり、建築的にも新しいことをいろいろやっている。ただ図書館に関しては武蔵野プレイスとは異なり、広い空間で1室であり、そういう意味では理想に乗っかっている。ギャラリーは1室の中にいろんな間仕切りを付け、美術館機能を果たしている。

実は図書館と言いながら、いろんな複合をすることもあるし、いろんな機能を付加することにより違ったイメージにもなる。図書館のあり方も年々変わってきているということである。

(会長) 資料の説明をひと通りしていただいた。委員の皆さんの意見はないか。

(委員) 計画敷地で5階建ては構わないとのことだったが、私の知り合いが調べたところでは建たないということだった。どちらが本当なのか。

(業者) シミュレーションのイメージ図を見られても分かると思うのだが、おっしゃるとおり実際に5階部分は非常に小さくあり得ない。イメージ図の形であれば、高さとしては法規的には大丈夫だけれど、機能はしない。

(委員) そうなのか。市役所の見解ではウルトラCでもないと建たないということだったのだが、日照権の問題ならこれくらいは建つということか。

(業者) 道路斜線による高さ制限も含めている。ただ実際の建築がこういう形になるとは思えない。イメージをつかんでいただくための図である。

(委員) それは構わない。私が言いたいのは、全部を複合施設に入れるなら、高さの問題で入らなくなるのではないかという心配だった。もう一点、それだけの平米数が入れるのかどうか。

(業者) 今は規模が明確ではない。規模によっても違う。確かに厳しいことは厳しい。

(会長) 石本建築事務所にお答えいただいた、よろしいか。一応こういう箱の中に入るといっただけであって、全部を使ってどうにかしないといけないということではない。ほかにないだろうか。

(委員) これからグループワークに入ると思うのだけど、こういう図が出てくるとどうしてもハード面に話が行きがちになると思う。それよりも、何のために、誰のために、何でここでという最初の部分をもっと審議委員の中を出し合い、共通の理念、基本理念を考えるべきである。先ほども共通理念が出ていたけれど、ただ古くなったから建て替えるという問題ではない。これからの伊予市を考える上で、この審議会は基本的な方針や機能を中心に議論することが大事で、その後は基本計画や基本設計時のワークショップで固めるという方向だったと思う。今日は施設の現状について意見交換を行うことになっているが、基本構想はグループで話合うものではなく、全体で討議するものだと思う。まずはみんなで基本構想というか、基本理念を考え合って、どんな機能を持つ場にしていくかを整備する。そして整備された所でどんな事業をしていくのか、事業するために運営をどうするのか、職員の体制はどうするのかと話を具体的にできると思う。ものを造る時に、基本構想とか基本理念を置いたまま進める訳にはいけない。審議会はどの段階で基本理念についてみんなで考え合うのかお聞きしたい。

(事務局) 貴重な意見をいただいた。おっしゃるとおり、物事を始めるに当たり、基本的な考え方(理念)がないと始まらないという考えはある。大事なことで、それを除いてワークショップの開始は考えていない。ただ前回現在の図書館の状況、文化ホールの状況を見ていただいた。その上で、こういうことに気を付けよう、こういうものを造ろう、市民にとって後悔のない施設を造るためにどうするか、とまずは見学していただいた内容について忌憚のない意見をいただいて意思統一し、併せて基本理念について皆さんと一緒に整理したいと考えている。

(委員) 分かった。それから私たち文化協会は、平成22年度から理事会を中心に、どういう文化ホール(文化会館)が良いか話し合ってきている。そういう経過も踏まえて、私たちが学習・検討したものがある。私は背中に何千人と背負っている文化協会の委員として出席している立場で、その理念を話し合う時に、その提案をさせていただきたいのだが、いかがだろうか。

(会長) まず先ほど市からお答えいただいた中身について。元々この審議会のミッションがあると思うのだが、正直言ってどんどん外れてきている。伊予市庁舎等と言って、市庁舎はできた。市民のための市庁舎とはどう

いうものか、形だけかもしれないが一応議論した。プロポーザルで業者も決まり、実施設計に向けて市民を巻き込みながらやっていくと。

そして図書館・文化ホールの話に移ったと思ったら、中央公民館と老人福祉施設と図書館の建替えになってきた。それを言うのなら別のどこかでやってほしい。基本理念とか言い出してスイッチを元に戻すのはなかなか難しいと思う。前回市長さんが、この敷地の中にひと通りいろいろなものを入れてみたいとおっしゃった。その全てがうまくきれいに入るかどうかは慎重に考えないといけない。先ほどの斜線制限や日影規制を見ても、なかなか厳しいと皆さんもお分かりだと思ふ。プロでも厳しいと思われている。機能の問題を言うと、すんなり全てが入るかどうかは分からない。小さいものをちまちま入れれば入るし、それで良いのならそれで構わない。ただそのことにより建物の利用が活性化されるか、あるいは地域が活性化するかどうかについては慎重に考えないといけない。そのことを基本理念とおっしゃっているのかもしれないが、基本理念の話をずーっとしても非常に抽象的な言葉しか出てこないと思う。

文化協会を背負っているとおっしゃったけれど、ほかの方もいろんなことを背負っている。結局全部入れないといけないという結論になってしまう。そういうことをする前に、まずは図書館、図書館が要らないという人はいないと思う。図書館をここに建てる、建てないというのではなく、まずは図書館のイメージを一度造ってみよう。グループワークという、話しやすい、自由な雰囲気を作り、こんな図書館だったら良いかなとまずはちょっとだけ風穴を開けてみる。次にホールや中央公民館の話し合いになるかどうかは、今日の様子を見ないと分からないが、とにかくいろんな意見を出してみると。その中でうまくいけばどこかで基本理念に戻って、図書館を含めた複合的施設のあり方とはこういうことなのかなと考えざるを得ないと思う。これまでの審議会では、かなり大上段に構えざるを得ないところがたくさん出てきたけれど、一度その枠組みを払って、いきなり複合化ではなく、せつかく図書館のいろんな資料を用意していただいたので、図書館という極めて文化的な施設をみんなでお話ししていただきたい。それぞれのグループで図書館と言いながら図書館でなくなるかもしれない。それでも良い。そういう事を含めて、今日は遊び半分結構なので、口と手を動かしているいろいろやっていただけたらと思う。後ろの傍聴席にもいっぱいおられるので、そこで皆さん一つの案を作ってくださいのも結構である。それは市の方にお任せする。ただ時間的に5時や6時までやるわけにはいかない。まとめる時間は1時間だ。1時間で一生懸命考えていただく。それでどうだろうか。

(委員) じゃあ今日は図書館を中心ということだな。

今までの進め方でいくと、ここで話し合われた内容が議事録として残っていた。グループ討議になると、そこで出てくる意見は今までのように一人ずつの言葉がきちんと残った形ではなく、項目くらいになるのか。議事録はとても大事だと思う。この審議会が部会ではなく、ワークショップで同じことを話し合うというのがふさわしいかどうかは分からないけれど、そこで出てくる意見は議事としてどう残していくのか、お知らせいただきたい。

(業者) この後のグループワークをどう進めていくかになるろうかと思う。今日は意見を出しやすくするために3つのグループに分かれてもらっている。話しやすいきっかけとして、各テーブルにポストイットカードを配布している。意見をとにかく発言してもらい、あるいはポストイットカードに書いてもらうなど、それぞれグループごとにどんな意見が出たか、たくさん意見があるということを、皆さんで把握していただきたい。

ある一定の時間が経てば、それぞれの班で出た意見を発表していただく。その発言されたコメントが議事録として残っていく。今後もグループに分けて進めるが、必ず全体で発表する場を持つこととする。その中で、例えば先ほどあった基本理念について全体で考えるべきではないかといった場面が出てきたら、全体で議論し合う場に変換する方法としたい。全体の場での議論が必要ない時は、できるだけ一人一人の発言、たくさん意見を集めたいと思う。ポストイットカードの数の多さが、それぞれのグループの意見で出た意見の多さになるので、まずはその意見出しをお願いしたい。

(会長) ということでよろしいか。

(委員) 先ほどの委員の提案のことであるが、文化協会から提案があると。こちらに集められた各団体にもまとまった資料があるかもしれない。私個人の意見であるが、もし市役所が良ければ、それぞれの資料を市の方で集めていただいて読ませていただいたらと思う。いかがなものだろう。

(事務局) 皆さんがそれで構わないという提案であれば、おっしゃるように集めさせていただいて、皆さまへコピーしてお配りしたいと思う。

(会長) 市はそういう用意も可能ということである。逆にそれは駄目だという所はあるか。いろいろ意見を伺う事は構わないと思う。それらは別の機会を設けて資料としていただくと。それを検討するかどうかの扱いは別であり、そこまで留めていただく。よろしいか。

(委員) さっきから申し訳ない。ここへ全部を集めると、全部の複合施設が入るか入らないかということも問題になると思う。その問題を解決しない

と、まずは図書館の問題、次に公民館の問題、そして市民会館。だんだん大きくなってくると、ここでは建たないことも起こり得るのではないか。それを頭に入れてやってもらわないといけない。道路の問題も出てくるし渋滞の問題もある。そういう問題も含めて、このグループワークで考えてもらえばと思う。

(会長) そういうややこしい問題も作業を進めてみると理解できるかもしれない。いろんな提示する体裁だけを見ていくのではなく、ちょっと頭に入れてながら楽しく考えてみていただきたい。

(3) グループワーク

(業者) 今回と次回については、主に図書館ということで考えている。まずはウォーミングアップ、自由に意見できるところから入っていきたい。今回3つのテーマを設定させていただいた。

1. 敷地と現況施設を見た感想...前回の敷地周辺、図書館や市民会館など、見ていただいた全てを対象として、自由な意見を出していただく。

2. 行ってみたい図書館は?...いろいろな意見の積み重ねにより、図書館というものの基本理念に繋がるきっかけと捉えていただきたい。

3. 複合化について...いろいろな機能を集めるという議論も重要ではあるが、この施設で入るかどうか検討すべきものの一つである。

これらの内容について、今疑問に思うものを自由にどんどん挙げていただき、今後答えられるものは答える、みんなで考えるべきものはみんな考えてという形で繋げたい。

今日テーブルを3つに分けており、正面向かって左手側を1班、右手側を2班、それから3班としている。手元に配布している名簿の、それぞれのグループの一番上に書かれている方を代表者と決めさせていただいた。1時間で3つのテーマを議論し、発表し合うので、各テーマについて15分ほど議論いただき、その後各班から順番に出た意見を紹介していただくという進め方としたい。各テーブルには、伊予市職員を1人ずつ、補助として付いていただくことにしている。職員の方々に進行のきっかけを作ってくださいよう願います。

(会長) 進行役については事前に許可を得ていないが、オブザーバー的存在ということで加わっていただくことにした。事後承諾にはなるのだが、進まない困るのでよろしく願います。それでは指示に従い、それぞれのテーブルにお任せする。

(業者) 先ほど会長から提案があった、傍聴に来られている方々の意見も聞いておきたいと思う。紙を今から配布する。記名無記名は自由で構わない

ので、よろしければ掲げているテーマについて意見を書いていただくようお願いする。傍聴の方々の意見は、時間の都合上発表する場は難しいのだが、こちらで記録しておくのでご了解願う。

テーマ 1：敷地と現況施設を見た感想

3 班の意見（意見の発表順、グルーピングは各班の判断による。以下同じ。）

・敷地について

立地条件が悪いと思う。建物の道路から奥に入っていて、できれば道路に面した土地に建っていてほしい。

敷地形状が悪く、駐車スペースも少なく不便。アクセスも国道から狭く不都合（場所が分かりにくい。）

今の敷地では狭い。

・図書館について

全体に暗い感じがする。

席数が不足している。

今の図書館は狭く、文化財など見ることがなく、イメージも悪い。オープンなものが良い。

図書館をバリアフリーにしてほしい。

メインをホールではなく、図書館を中心に考えては。ホールは小さくてもよい。全体的にコンパクトにする。座席は今の半分で良い。

・公民館／老人福祉施設について

老人施設が同居しているが、分けてある方が良いのではないか。

現在の中央公民館は、老人センターと複合施設で狭い。未来を見据えた建物にしてほしい。

公民館は建物が古い上に、内部の整理、清掃等不十分で、退廃的雰囲気である。

体育館をカットしてはどうでしょうか。

老人センターを別の敷地に。

・市民会館について

ゲストの出入りがステージを通らないといけない。

リハーサル室がない。

控室が 2 階にあるので、ゲストに失礼。ステージモニターの設置
ピアノが端に置かれている。保管庫がない。

2 班の意見

・特化した図書館について

伊予市らしさ、特色のあるものに特化させる。
特化した図書館にしてほしい。例) 栄養関係、五色浜一灘町関係
郷土史関係書籍を充実させて (地方出版物 etc)
閲覧可能な電子図書があれば良い。
インターネット、プリンター、コピー
行ってみたいと思わせる、思われる施設づくりを。
いろんな問題が解決できる所になってほしい。
ソフト面と交流・楽しい・ネット
ソフト面を重視していただきたい。
市民がつくり、市民が責任を取れる建物
市民の自発的な活動が育っていますか。
静かに勉強する所というイメージが先行していて、楽しい所、気楽に寄れる所と思にくい。
列車が通っており、防音装置が必要。
森体育館にある珪化木をシンボルとして図書館に。
駐車場が少ない。
図書館はいる。
市民会館は避難場所である。
敷地が狭い。
形がいびつ。
土地が住居専有地域だから狭い。
平屋建てが望ましい。1階に建設すること。インターネットは必要
学校との連携はどうなっていますか。
狭いけれどまちなか～庁舎～駅の中でどう機能していけば良い施設になるかを考えるべきと感じた。
中山や双海の図書活動との連携はどうなっていますか。

・職員について

司書は？専門職の人は？

司書等スタッフの充実

利用されていないのは、職員の取組みにもあるのではないか。

・文化ホールについて

500～600 席は欲しい。

小さい (席数の) 市民会館はいらない。500 席以上

老朽化している。汚い。

600 席以上必要

- 安全面について
 - 道路事情が悪い。
 - ぐんちゅう保育所があり、安全性はどうか。
- 人にやさしい施設について
 - 様々なハンディのある人たちが使いやすい。
 - バリアフリーでない。
 - 幼児スペース、ソファーなど少しくつろげるような場所があれば良い。
 - 子どもが少し遊べるようなブースが欲しい。(DVD、CDの視聴OK)

1 班の意見

- 道路駐車場について
 - 図書館に来るまでのアクセスの道路が危険
 - アクセス道路の問題、駐車場の台数
 - 银杏通りから入れる道路を。駐車場が狭い。
 - 交通安全面から不便な構造になっている。
- JRの音
 - JRの汽車の音が図書館にはネック
 - 汽車の音対策
- 施設
 - 安全性に対して、全面1階で明るい室にしてほしい。
 - 図書館の面積は2倍ほしい。駐車場不足の心配
 - 図書館は子どもたちと別部屋の構造にするべき
 - 現況は子どもにとって危ない。図書館としては暗い。利用されていない部屋があるように思う。
 - 障害者に対して使いにくい。駐車場は狭い。

テーマ2：行ってみたい図書館は？

2班の意見

自然アート建築に

靴のまま上がれる床

喫茶、ものが言える

広々とゆったりしたスペースが欲しい。

ミュージックライブラリーの充実を図られてはどうか。文化ホールとの連携

お茶しながらの図書館が欲しい。

子ども連れで行きやすい。

伊予市を知り、地域を誇りに思えるものに。

資料館については、展示は市内各地へ。収納場所は旧校舎や遊休施設を活用したらどうだろう。

どんな人でも利用したくなる所。

明るくきれいな雰囲気

伊予市のことが分かる、学ぶことができる。

学びの場

1階にあること

省エネルギー建築物（流れを子どもに見せられる。）

カウンターの中に図書に詳しい職員を。図書好きなボランティアの活動できる所

本に関するイベントが豊富

イベント、新書を入れるたびに。

1班の意見

砥部に行った。職員の対応が親切。

中山町図書館に行ったが、非常に暗かったので、明るくしてほしいと思う。

大洲の図書館が明るくとってもいい雰囲気だった。

松前町ふれあいプラザへ昨日行った。

子どもが少し騒いでも大丈夫なスペースがあると良い。

ブースに分かれていて、個人でパソコンを持ち込んで、勉強できるような所があると良い。

公園付きの施設。外で読書ができる環境

明るい、書籍を見つけやすい、専門書がたくさんある所に行きたい。

ほかの市の図書館に見学に行きたい。

本がたくさんある図書館
雑談をしてはいけない雰囲気だが、息苦しい。
AV、DVDの鑑賞ができるスペースがあると良い。
ブックスタートのできる場所が必要。
家族で楽しめる室もあったらどうか。
お茶でも飲みながら話もでき、場所もある図書館
コンパクトで全体が良く見える。
電子図書が見れる所

3 班の意見

- ・ 図書館を利用したことがある人 2人／5人中
 図書館へ行ったことがない。照明・雰囲気が明るい図書館が良い。
 明るい所で楽しく読めば良いなと思う。
 国会図書館
- ・ どんな図書館に行きたいか。
 お茶を飲みながら本が読める図書館
 自由な気持ちで利用できる場所、話も飲み物もできる。図書館ではないが、エミフルの TSUTAYA
 コミュニティセンター（松山市）には週一回行く。本だけでなく DVD も 8 時まで借りられるため、仕事帰りでも行ける。水泳や卓球もでき、子どもも楽しめる。全てを満たしている。
 国会図書館 順番カードと要望図書を前もって出し、待つ。とても荘厳な感じ。
 ある程度読めるような広さと椅子は多めに。
 落ち着いたのある図書館（クラシカルな雰囲気の図書館）
 花などもあり、清潔感のある図書館にしてほしい。
 読書中、読後に議論できるスペースのある所。関連する図書類がすぐ手に入る体制

テーマ3：複合化についてどう思いますか？

1 班の意見

複合化は良いと思うが、今の場所では無理だと思う。
少子化になり、地域でも大人と接する機会も少ないので、施設の中で交流のできる場所として使えるのでは。
複合化は良いと思うが、文化ホールだけは別にした方が良いと思う。
文化ホールは別の場所に考えてほしい。
文化ホールは他の3施設と関連があまりないのでは。
建替えであれば、集客数はそれほど見込めないと思う。
高齢化が進行していく中で、駅の近くに文化ホールを造る。
町の中の空き家などを利用することで、町の中にも足を運ぶ工夫があれば効果がある。
複合施設利用者が街中へ流れるのと、客層が異なるのでは。

2 班の意見

図書館＋文化ホールはOK
コンパクトにしてしまわない。
老人福祉施設は街中の空き土地を利用
地域をつなぐライン、建物を建てれば良いという訳ではない。
建物を建てれば活性化する訳ではない。中で何をするか、どんな活動をするかが重要。
人に利用してもらおう。特に市民の利用
運営主体に市民参加。行政とのパートナーシップが必要

3 班の意見

- ・複合化することについてどう思う？
複合化しすぎるのは反対。せめて図書館と文化ホールのみ。
複合化は良くない。特に老人福祉施設は別。
複合は良いとは思わないが、土地に限りがある。全部を複合しないで一部（老人施設）はやめてほしい。
複合化をすると、各施設の機能・規模が縮小されてしまう。
複合化は1か所にあることで、合理的であり使いやすい。デパート的な役割
バラバラにするより一本化した方が良い。管理運営の問題もある。
複合化することで建設維持等の費用が軽減される。

・町の活性化に対し、どのような効果がある？

複合することで、1か所で済む利用が多く便利

市街地の主要施設が集合化され利便性も高く、集客力が高い。

複合することで経費が少なく済むのではないか。

複合化により、人の流れがある程度読める。バラバラに施設を造るより、はるかに機能し、街の活性化にもつながる。

活性化の希望はない。

(業者) 本日この3つのテーマについて、傍聴に来られた方も含めて意見を出していただいた。まずはたくさんの意見があるということをお皆さん感じていただけたと思う。これらについては、全て記録し、皆さまに配布したいと思う。また、今日出た意見の内容によって、今後の流れやテーマ設定の参考にさせていただきたいと思う。今日は変則的な、グループワーク的な進め方を行ない、それぞれのグループでは代表者に発表いただいた。簡単で構わないので、グループワークの感想を一言ずつお願いできるだろうか。

(1班) 直観として、このテーマを与えられる予測をしていなかった。もっと良いアイデアがあったかもしれない。残念である。

(2班) いろんな意見が出て良かったと思う。これがうまく集約できるのか、それがちょっと心配である。

(3班) 少人数なので、何かは書かないといけない、言わないといけない、そういった所が良かったのではないかと思う。

(業者) ありがとうございます。1班のテーマについては、これからもいろんなテーマを出していくので、今日出すことができなかった意見は敗者復活ということで、次回いろいろと意見を出していただくようお願いする。

2班の意見については、まずは出し切ることが大事であり、たくさんの意見があることを認識することが大事だと思っている。そういう意見が全く出されずに、水面下に沈んでいくことが一番怖いことだと思う。この後短い期間でどうやって集約していくか、皆さんの協力も必要となってくる。次回はテーマ設定したものを事前にお伝えしていきたいと思う。

3班の少人数によるワークグループについては、全員で進める際には出ない意見・内容であったり、ごく当り前だから出さなくていいという判断で消えてしまうような意見だったりすることもある。具体的に話していただき、具体的に問題だと思って挙げていただくことは大切だと思う。今日のたくさんの意見は貴重な意見である。次回はもう少しテーマを絞り、図書館をもう少し深く考えていくので、よろしく願います。

(会長) 皆さま御苦勞さまでした。短い時間であったが、いろんな意見を出していただいた。いろんな矛盾する意見や対立する意見もあるとは思いますが、問題点を共有するという点ではまずまずだったのではないかと思います。併せて、傍聴席の皆さまにも相当な数のご意見をいただきました。それらも参考にしていきたいと思う。

グループワーク進行役の石本建築事務所からも紹介あったけれど、問題点をきちっと把握して、どういう議論をしたらいいのかという取りかかりにはなったと思う。次回からどのようなやり方をするかはまた検討するけれど、皆さんともう少し意見交換をして、枠組みを考えていきたいと思う。冒頭に基本計画の問いかけもあったが、それに関わる内容も少し出てきたので、次の機会に繋がっていくと思っている。今日の内容については、次回整理したものを確認して進めていきたいと思う。

(4) その他

(事務局) 今後の審議会の日程について、次回は予定通り 10月25日(木)、その次は11月8日(木)を予定している。次回の資料についてできるだけ早い時期に、皆さんにお届けしたいと考えているので、よろしく願います。

(会長) それでは皆さん、今日は長時間というか、少し時間をオーバーしてしまいましたが、いろいろ作業をしていただき、全員参加、プラス傍聴席参加のとても熱気あふれた議論ができたということで、お開きにしたいと思います。次回もよろしく願います。どうもありがとうございました。

(16:25 終了)